

安足地域水稻技術情報 No. 5

令和 8 (2026) 年 8 月 27 日

安足農業振興事務所

水管理：落水時期(出穂期後 30 日以降)までは、間断かん水を基本としましょう。

高温対策：出穂後に高温が予想される場合は、夕方から早朝にかん水を行い、地温の上昇を抑えましょう。

斑点米カメムシ類対策：適期に薬剤防除を実施し、不稔や斑点米の発生を防ぎましょう。

1 水稻生育診断ほ場(佐野市石塚町)の生育調査結果

「とちぎの星」の出穂期は、平年より 2 日遅れました。

表 1 水稻(品種：とちぎの星)の生育調査結果

	8 月 20 日 調査	平年比・差
出穂期	8 月 20 日	+2
葉齢	13.1	-0.2
葉色(葉色板)	3.5	0.0

移植日：6 月 15 日



写真 水稻生育診断ほ場の様子

2 今後の気象

気象庁が 8 月 20 日に発表した 1 か月予報によると、向こう 1 か月の平均気温は「高い」、降水量は「少ない」、日照時間は「多い」と予想されています。今後、高温条件が続いた場合には、成熟期が平年より早まる可能性があります。

表 2 関東甲信地方(栃木県)の 1 か月予報(2026 年 8 月 20 日気象庁発表)

気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)			
気温	関東甲信地方	向こう 1 か月 08/22~09/21	10 10 80
		1 週目 08/22~08/28	10 10 80
		2 週目 08/29~09/04	10 10 80
		3~4 週目 09/05~09/18	10 30 60
降水量	関東甲信地方	向こう 1 か月 08/22~09/21	40 30 30
日照時間	関東甲信地方	向こう 1 か月 08/22~09/21	30 30 40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 これからの作業のポイント

(1) 水管理・高温対策

出穂期前後は最も水を必要とする時期です。水を切らさないよう、こまめに間断かん水を行いましょう（図1）。

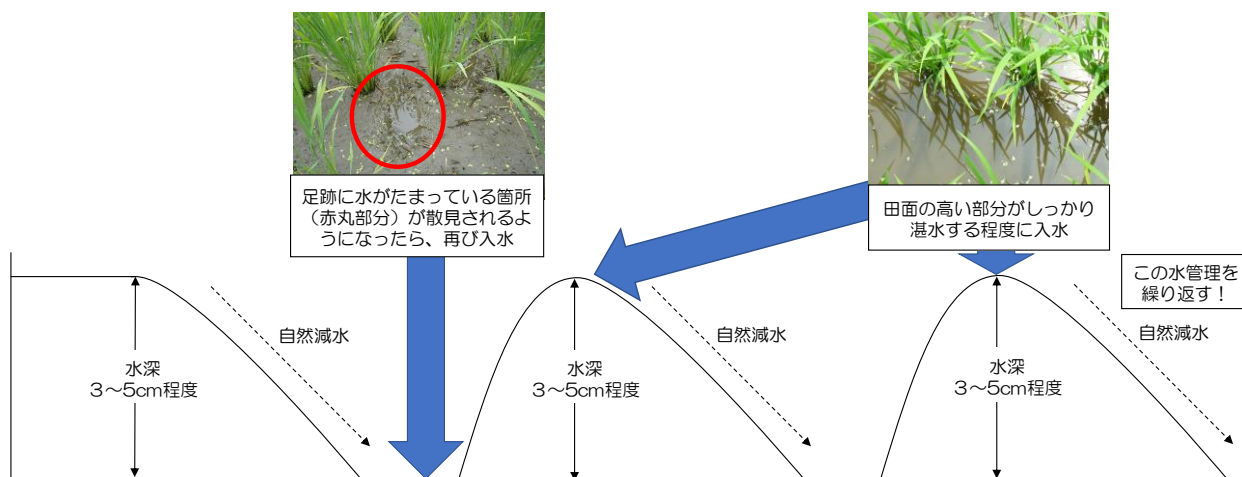
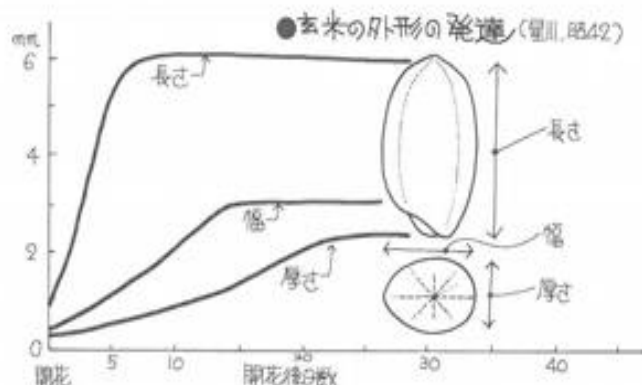


図1 間断かん水のイメージ



玄米の大きさは出穂後約4週間で決まります。高品質な米を生産するため、落水時期（出穂期後30日以降）までは間断かん水を継続しましょう。なお、出穂期後30日以降も高温・多照条件が続く場合は、収穫の7～10日前まで走り水を行いましょう。

出典：「安心イネづくり」（農文協）

<高温対策は夜間かん水>

出穂期から20日間は、ほ場内の水温や地温を低く保つことで、胴割粒や白未熟粒の発生を軽減できます。高温が予想される場合は、夕方から早朝にかん水を行い、地温の上昇を抑えましょう。

(2) 斑点米カメムシ類の防除

- ・不稔被害を防ぐため、出穂期頃に薬剤散布（薬剤散布①）を行いましょう。
- ・斑点米被害を防ぐため、薬剤散布①の7～10日後に薬剤散布（薬剤散布②）を行いましょう。その後も斑点米カメムシ類の発生が認められる場合は、7～10日間隔で1～2回の追加防除を実施しましょう。

問い合わせ先

安足農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0283-23-1431

ホームページ <https://www.pref.tochigi.lg.jp/g58/index.html>